

令和7年度
川崎市立小学校養護研究会 研修会

『体育科保健領域の学習の進め方、評価のあり方』

7月25日(金)@川崎市総合教育センター
横浜国立大学教育学部 教授 物部 博文 先生



今年度の夏季研修会は、80名の方が参加していただきました。

体育科保健領域を中心に授業についての考え方、授業づくりのコツや、学習指導要領の読み取り方、評価の方法などについて学びました。講演の中では、ワークを通じて参加者との情報交換ができ、より自分事として授業づくりの理解につながりました。

◎現代社会

⇒さまざまな情報が容易に入手できるとともに、多様な価値観が存在する状況の中で、いかに自己や社会の健康を維持・増進し自己実現するか。

【求められる学力】

- ①基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力
- ③学習意欲

◎日常の保健室経営の中から、児童生徒に必要な健康教育について考えてみる

◎子どもの認識に寄り添って授業を組み立てる

⇒伝えたことが相手にどう伝わっているのか。感じ方、受け止め方は一人ひとり違う
⇒楽しい授業＝印象に残る授業＝授業にどのような仕掛けをしていくのか

◎『健康に対する育ち』・『分かったつもり』

⇒【素朴概念】・・・学校などで系統的な科学教育を受けてなくとも、人間は日常経験から自然現象に関する「自分なりの」理解を作り上げている。こうして作られ、保持され、利用される概念を素朴概念と呼ぶ。

◎良い問題（問い）の条件とは⇒具体性・検証可能性・意外性・予測可能性

◎保健学習の評価について

⇒評価の観点・・・①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

⇒学習評価の進め方

⇒児童生徒の具体的な姿

⇒評価方法の工夫改善

⇒学習指導要領を読み込みながら、授業を考える

【参加者からの感想】

- ・「わかったことは忘れないが、記憶したことはわすれてしまう」の言葉が心に残った。子どもたちが、授業を受けて「分かった！たのしい」と思うような授業実践に努めたいと改めて感じた。
- ・物部先生の親しみやすいお人柄や話し方がとても素敵で、あっという間に時間が過ぎていった。「授業は教師が楽しむ、楽しむ授業は心に残る」という言葉が印象的だった。
- ・「養護教諭が授業をすることは、普段は保健室に来ないような教室で頑張っている子の呼び水になる」という言葉に養護教諭が授業をすることの意味を感じた。